

## 平成25年度第3回青梅市協働事業市民推進委員会概要

平成25年11月18日

本庁舎5階502会議室

午後2時～午後4時

出席委員6人・欠席委員3人

### 1 委員長あいさつ

本日もよろしくお願いたします。

### 2 報告事項

#### (1) 平成25年度市民提案協働事業中間報告について

事務局より報告

委員：「I LOVE♡青梅」フォトコンテストの目的は

事務局：写真コンテストの応募作品を撮影するために青梅にやってくる。青梅を好きになりまたきてもらう。

委員：ポスターやちらしを市内だけで周知しても仕方がない。

青梅沿線に依頼し、立川あたりまで範囲をひろげ掲示したほうがいいのでは。

委員：「生ゴミ堆肥の実験畑」は成分検査をしたと言っているが、どんな成分がでたのか、成果として表現する必要があるのではないか。

委員：ダンボールコンポストは、やりやすい方向にもっていき行わないとモニターはふえないのでは。

委員：若者カフェは継続性が必要ではないか。

事務局：市民協働事業推進会議で提案事業について今年度が終了していない段階で、次年度の予算化は難しいとの意見があった。平成24年度は、1回実施した事業は次年度同じ事業で申請しても新規性が落ちるとのことであったが、協働提案制度で、提案してもらい、審査委員会で採択された場合には、いいのではないかと考えている。意見をお聞きしたい。

委員：平成24年度協働事業をみると行政側の自己満足の事業ではないか。平成24年度協働事業をみると継続が必要かどうか疑問の事業がある。

事務局：補助金なので、審査が通れば3年位はどうか

委員：せっかく始めたので継続するために知恵を使って、何が問題だから、その問題を解決するためにこういう提案をする。提案結果に基づいてどんな効果がでるのか、いくら儲かるか、いくら提言できるのかをきちんと言わないで、精神的に楽になりましたではだめではないか。

事務局：受ける側として、どういう問題があったから、きちんと問題点から展開していかないといけないのでは。たしかに問題があったから提案してきた。問題がなくてもこうしたほうがもっといいという将来的な提案もある。提案は提案としてうけいれるとしても、何をどういうふうに具体的にやっていくのか、定量的にどれだけのマンパワーをとおして利益がでるのか、おいかけていくことが必要である。

委員：協働事業で採択されたものが、予算の関係などで、継続できないという問題点が提示されたかと思うが、継続的な事業なら、次年度提案するのもありかと思うが逆に担当課が安心してしまう。必要なものは自分の課でなんとか実現していく方法を検討していく方法につながればいいと思う。

事務局：提案制度は平成24年度にはじまり、採択された事業に助成金をだす。初年度は初動費として市がだし、協働なので継続していくものなので翌年度に課と調整し、担当課で予算課する団体でだせれば苦面し、協働事業として継続してもらうのが目的ではないか。

委員：平成24年度協働事業をみなおしたほうがいい。

委員：それぞれの課は協働事業にとどまらず、事業の見直しは協働事業に限らず行っているのでは。

委員：市は成果をださないと認めないという立場である。市民活動推進課で2年もつ。それ以降、継続する場合は担当課が進めていく。結果をしめし予算要求できるものでないか。

事務局：他の自治体では2、3年目まで助成する。4年目以降は担当課で、また面倒はみないで団体で行うなどの方法はある。市民提案協働事業で同じ内容で申請してもらおうと、審査があり、

新規性で点数が低くなる。

委員：採択されたとしても、また来年度は市民の方でなんとかしてくださいとのことになる。協働で実施していたものが市民活動になる。新規が増えるので意味がなくなる。

委員：2年実施することで実績がでて、担当課も実績があるものは計画にのせやすくなるのでは。

委員：今、必要なもの、昔は必要だったが不要なものがある、それを行政は整理したほうがいい。整理されない限り、必要な事業が継続できないのでは。団体も自分たちで資金をみつけれられる団体ばかりでない。行政と一緒に青梅をよくしようと思った結果、団体でどうぞはよくない。市民活動をする市民がでてこなくなるのでは。

委員：「市民課等窓口における広告掲載封筒の設置」協働ではないのでは。

委員：協働は市民等と書いてあるので企業との協働もある。協働で実施することで企業の名前を無料にに入れてやる、入札をいれて行っているのでは企業との協働でいいと思う。

委員：庁内の委員会ではどうか。

事務局：市民推進委員会で要約したものを報告する流れになっている。

事務局：協働事業を継続していく場合に、財政的負担はできない協働もある。財政的負担ができなくてもいいのかというところもあるかと思うが。

委員：子ども未来でいうとノーバディパーフェクトという事業が好評だったが講師料と託児代がかかる。参加したい母親がたくさん集まってくる。継続を希望したが、会場確保のみの協働である。団体も行政も努力する。協働研修で言っていたが、行政に言えばお金がでるといふ考えはいけない。お互い努力しよいい協働を進めていくことを目指しいいものは残し選別してほしい。

委員：システムは担当課に検討してもらうのでは。

委員：審査基準の新規性の意味がなくなるのでは。

事務局：審査会の日程について、前年度に日曜日に行ったが、市の協

働推進委員にも出席してほしいとの意向もあるので、平日に行いたいと考えている。

委員：いいと思う。日曜日は行事があるので団体も参加しづらい。

### 3 協議事項

#### (1) 平成26年度市民提案協働事業審査委員の選出について

川崎委員長、鈴木副委員長、井上委員、須田委員

#### (2) 平成24年度協働事業の評価について

委員：親子で楽しく文化体験は、実施内容をみると趣味の世界ではないか。

委員：地域の方を講師とし、異年齢の交流を行う事業である。親子を対象に、普通の料理教室でなく、郷土料理などを学ぶ。墨文字アートは、大きな筆で大きな紙に体育館で書くものである。

委員：家庭教育講演会は、学校の担当部署や学校の先生にも協力していただいたほうがいいのでは。

委員：効果と課題はもっと具体的に記入したほうがいい。  
参加は何人か、参加者からどういう評価を得たのか。

委員：評価シートの記載方法が統一されていない。目標値はでているが、実績の数値が記載されていないものがある。

委員：目標値の設定がされ、実績値があり、それに対する評価がされていないと何の評価かわからない。

委員：シートの様式の問題でないか

事務局：今後、改善していきたい。

#### (3) その他

事務局：平成26年度2月1日に市民活動団体を対象に「組織の基盤強化」の講座を開催しますので、ご参加をお願いします。

#### 閉会あいさつ

委員：さまざまな意見がでた中で、来年度よい協働ができるようよろしくをお願いします。本日は、ありがとうございました。